

2008 年度静岡健康科学英語研修プログラム (SHEP)

(オハイオ州立大学—2008 年 6 月 16 日~7 月 25 日)

(担当講師 Louis Holschuh 作成、吉村紀子訳)

概略

第 2 回目の実施となる 2008 年は、当初の計画通り、研修期間は 6 週間であった。参加者（8 名）は、昨年度と比較して、国際会議に積極的に参加し、効果的なプレゼンテーションができる英語力の習得により多くの時間を費やすことができた。さらに、今回、キャンパス内の寮に生活し、アメリカ人のカンパセーションパートナーやホストファミリーがいたことは、参加者にとって、インフォーマルな会話を練習でき、クラスで習ったオーラルコミュニケーションを実践する、実質的な機会の提供となった。

6 週間の研修では、すべての英語スキルを学習できるようにしたが、特に、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション、ディスカッションのスキル向上に力を注いだ。指導では、可能な範囲において、健康科学の分野に関連したものを取扱った。学生たちの研究はプレゼンテーションのトピックとして活用した。

使用テキスト

Seal, *Academic Encounters: Human Behavior*

Richek, *The World of Words* (7th edition)

Hagan, *Sound Advice* (2nd edition)

Morley, *Listening Dictation*

カリキュラム

授業は月曜日~金曜日、一日 3 時間であった。加えて、プレゼンテーションについて個人指導を行うため、チュートリアルを参加者一人に対し 3 回実施した。主な学習活動として以下のことをおこなった。

リスニング・発音練習—*Listening Dictation* の練習問題はクラスで終了させ、参加者は音声テープ等を利用して追加の練習問題もそれぞれ行うよう指導した。聴解力、発音、流暢さの向上を図りつつ、基本文法の復習をおこなった。また、*Sound Advice* を用いて、英語の理解に欠かせないストレス、リズム、連続音の結合等の練習をおこなった。

ゲストスピーカーによる講義—より長い談話の理解力の向上を図るため、録音された会話やアカデミックレクチャーを活用した。研修後半の 2 週間は、以下の 3 名による招待講演（健康科学関連）を実施した。講演では、参加者からの質疑応答、そして

ディスカッションと展開して行った。

[講演者と演題]

Stephen Rosenstiel, The Ohio State University – The safety of dental amalgam

Karl Romstedt, Capital University – Cancer

Margaret Ginn-Pease, Capital University – Enzymes

また、オハイオ州の医療リハビリテーション施設 (Dodd Hall) の見学を行ったが、英語での説明であったので、長い時間英語を聴く練習にもなった。

正確なスピーキング—このプラクティスは、専門用語がプレゼンテーションで正確に発音できるように、参加者の研究分野からのキーワードを音声練習した。さらに、*Academic Word List* (Coxhead 2000)から単語を選択して発音練習した。

流暢なスピーキング—流暢さと自信を向上させるため、毎週数回、物語の作成、グループ同意活動、即興スピーチ等を行った。

リーディング・ディスカッション—アカデミックな話題について議論する力を促進するために、*Academic Encounters* からの論文について小グループでのディスカッションを実施した。特に、以下の場合に役立つ機能語句や表現—例えば、理解できない、他者の参加を促す、同意する、反対する、話題の転換、議論を前に進める、不明点を確認する、意見を述べる—を練習した。参加者は、ディスカッションリーダーとしての言語活動も練習した。

プレゼンテーション—参加者はプレゼンテーションを5回行った—(1) インターネットからの論文の概要発表を2回、(2) 各自の研究分野で用いる概念の説明、(3) 研究プロジェクトのポスター発表、(4) 各自の研究概要の紹介 (一般者対象にして)。効果的なプレゼンテーションのスタイルや方略に学習の焦点を絞り、テーマの導入方法、使用する概念や用語の定義方法、聴衆への配慮方法、そしてスライド等の使用方法を学習した。特に(1)と(3)に関しては、チュートリアルにて一人ひとり復習を行うと同時に、ファイナルプレゼンテーションについては事前に練習した。なお、ファイナルプレゼンテーションには、中山峰治氏 (オハイオ州立大学プログラムコーディネーター)、本研修プログラム ALP 責任者、吉村紀子氏 (静岡県立大学プログラムコーディネーター) が参加した。

単語—The World of Words から資料を作成し、単語力の強化を意味と発音の両側面か

ら行った。

ライティング—参加者は各自のプレゼンテーションの要約を作成した。その中で生じた単語や文法の間違いについては、添削した。ただし、ライティングについては学習時間が制約された。